

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
編集  
なかま編集委員会  
〒285-0025  
佐倉市鎚木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

本を読む----- 島田 敏晃 東京マラソンボランティアに---- 斎藤 たかし  
今日もチャリで小旅行----- 宮本 清二 この世はおカネ次第----- 板井 省司

## ニュージーランドの旅

鶴澤 和良



ニュージーランドは小さな島国で、面積など日本とほぼ同じだが、人口は400万人を少し上回る程度で少ない。また、国の歴史は比較的浅く、約1000年前、マオリ族に始まり、18世紀末頃からヨーロッパ人が移り住むようになり、19世紀後半から国として大きく発展。現在では、マオリ系、ヨーロッパ系、ポリネシア系、アジア系など、異文化の融合するユニークな国際国家となっている。

旅は、北島のオークランドから始まり、最初の見学地「ワイトモ洞窟」に向かった。郊外を抜けると、広大な丘陵地帯で、森林はほとんどなく、すべてが開拓された牧場である。ニュージーランドといえど、羊。国全体で5000万頭が飼育されているとのこと。どこへ行けども羊、羊、羊で

ある。しかし、羊だけではなく、牛や馬もかなり放牧されていた。それぞれ種類も多く、見ていると飽きないほどであるが、その中には驚いた。また、牛が1列になって移動している光景も興味を引き、その滑稽さに笑ってしまった。

北島の西岸付近にあるワイトモ洞窟に到着。約3000万年前の石灰岩で形成された鍾乳洞である。周辺にも数々の鍾乳洞が残っているが、青い光を発する「土ボタル」の生息で知られている。土ボタルといっても蛍の仲間ではなく、ヒカリキノコバエという昆虫の幼虫で、洞窟の天井に張り付き、餌となる虫を誘き寄せるために腹から光を発しているとのこと。暗い洞窟内を船で行くと、天井一面を埋め尽くす程の青白く光る土ボタルが観察できた。幻想的でまるで満天の星空の様で、その見事さに感動した。

マオリ文化と温泉の街ロトルアで先住民マオリの生活文化遺産の見学後、南島の「マウント・クック」に向かった。3000級の山が連なり、<sup>あまた</sup>数多の氷河を持つサザンアルプスという巨大な山脈を形成。世界自然遺産にも登録され、険しい山々とU字谷の織りなす素晴らしい景観を見せていた。中でも最高峰となるのが「クック山(3724m)」で、その荘厳な勇姿に魅せられた。また、ハイキングでは、マウント・クック・リリーの白い花を観ることもできた。

ミルフォード・サウンドでは、世界自然遺産に登録されている壮大なフィヨルドのクルーズ観光を満喫した。険しい山と海に囲まれた渓谷、その荘厳ともいえる迫力に圧倒された。概ね、自然を満喫し、感動ある楽しい旅だった。

(編集委員)

## 本を読む

死ぬまでにやり遂げたいと思っていることは、日本及び世界の名作といわれる物語、最近話題となった本、全て読んでみたいと思っていることです。

本を読むことが好きになったのは、確か小学校の3、4年生の頃だったと思います。秋の運動会の練習の時間が雨で中止となり、先生が室内で、確かガボリオという作家の『名探偵ルコック』という本を、みんなに読んでくれました。そのとき初めて長編小説というものに接しましたが、非常に面白いものでした。そのときから本を読むのが好きになりました。特に推理小説が。

6年ほど前に、どうせ本を読むなら、日本及び世界の誰でもが知っているような、有名な本を全て読んでみようと思いい立ちました。ジャンルは問わないで、古典ではトルス

トイの『戦争と平和』とか、推理小説ではアガサ・クリステイの『そして誰もいなくなった』とか、各種資料や記憶に基づいて、何でもありで候補を選びました。その結果全部で約530編程リストアップしました。

過去に読んだものと、リストアップしてから読んだものを外していくと、現在未読のものは、日本もので30編、外国もので60編となっています。未読のものには、かなりの長編が多く含まれていますので、死ぬまでに全部が読破できるかどうが大いに疑問です。これだけの分量を読むとなると本代も馬鹿になりませんが、志津図書館を利用させてもらって、全て無料で読んでいます。

(ユーカリが丘 島田 敏晃)

## 東京マラソン

### ボランティアに参加して

早朝から澄み切った青空であった。2月28日東京マラソン10回記念大会の幕開けである。最高のマラソン日和、否ボランティア日和とでも言うべきか。

私の担当はスタート地点から凡そ9キに差し掛かる和田倉門噴水公園周辺、コース整理員のリーダーである。

メディアはランニングポリスやドローンの参加によるテロ対策に重点を置いた報道に力を入れているが、研修を重ねたボランティアの存在も大きいと自負したい。

朝8時前、同じ区域で協力し合って活動するランナーサポート(トイレ誘導)や観衆整理のリーダーと打合せの後、メンバー全員と東京陸協職員と共に活動を開始した。

東京駅丸の内中央口から皇居へ向かって直ぐ、大勢の観衆が集まると予想される地点

である。

エリートランナーが通過した後、次々と市民ランナーが楽しみながら走って来た。

私はランナーが走り過ぎるまで立ちっぱなしのボランティアメンバ―に気配りを続け、時折声を掛けながらランナーに向けてゴミ袋の口を広げる。

ランナーは「ボランティアさんありがとう」と礼を言いながら、空になったペットボトルや手袋等をボンと差し出し走り続ける。

途中の関門に間に合わなかったランナーを乗せる収容車とゴミ収集車が通過の後、私たちも後片付けを終え、メンバー全員の無事を確認して解散した。

私はサンクスパーティーが行われているフィニッシュ会場のビックサイトへ向った。こうして10回連続参加を達成して満足感を味わったのである。

(石川 斎藤 たかし)

## 今日もチャリで小旅行

知り合いから「バスが借りられそうなので見学先を考えてほしい」と頼まれた。下調べに図書館に向いたが、佐倉市内の図書館は、全館臨時休館とのことで、行き先を四街道に変更し、手繰川沿いにチャリ（自転車）で南下する。

四街道市立図書館にて、近隣の地図を眺めていると「アンデルセン公園」の文字に惹かれた。近くには「船橋民の森」があり、野外調理もできるとのこと。思い立ったが吉日、急遽ハンドルを北に向けて走り始める。途中で、千葉花見川区のブックオフでガイド本を調達する。

お腹もすいてきた。私は、ほとんど毎日チャリを転がしているの、昼食は外食で、いつもは本を読み足が伸ばせるファミレスを利用することが多い。でも、今日は（も？）懐具合が寂しいので、コンビニ

よりも格安なスーパーのイトインを使う。無料のお茶をいただき、カップ麺とおにぎりを食す。

さらに、小一時間走って、船橋民の森に到着。野外調理の器材とバス駐車場の確認をする。ご近所のアンデルセン公園は、今や大人気のスポットとかで、深緑の木々と萌えるような花の色彩が期待される。「65歳以上入場無料」なのになによりうれしい。

次いで、昨年末にオープンした八千代市立中央図書館を見学候補地に加え、近くのフルにも立ち寄り、女房に頼まれた食材を買い込んで帰路に着く。

（白井台 宮本 清二）



## この世はおカネ次第

昔から日本人は、おカネや儲け話については人前では話さないことを旨としてきた。

おカネは好きかどうかの質問には、考えるまでもなくほとんどの人が、好きと答えると思う。知人から、「良いカネ儲けの話があるのだけど、どう？」と言われると、何故か怪しさが付きまとう。おカネが好きにもかかわらず、前面に出されると少々引いてしまう。カネには、そんな不思議な側面がある。

恰好をつける人は、人生カネだけではないよ、心意気だよ、カネの亡者にはなりたくない、云々と綺麗事を並べたてて本音を出したがる。特に職人は、カネのためでなく心意気や腕を磨くことに力を注いできたように思う。しかし、昨今はそのような職人もだんだん減り、カネを欲しがらる「職人もどき」が増えてきたのは寂しい限りである。

古来、日本人は汗水たらして働き、収入を得ることが尊いこととしたものである。それが今は、頭を使い楽にカネ儲けができる才能を持った人や、強い金持ちが社会に影響を及ぼしてきた。

世界経済においては、カネをジャブジャブと市場に流し、そのカネがあつちへ行つたりこつちへ来たり大移動。大体がカネを右から左に動かしただけで、大きな利益を得ようということ自体がまっとうなことではないのだが。

日本にはカネに関する諺が驚くほど沢山ある。それほど日本人はカネに対して敏感であつた証拠でもあろう。

いずれにしても「カネは天下の回りもの」という、あきらめに近い言葉でお茶を濁すのが精一杯である。

（ユーカリが丘 板井 省司）

## 7月の黒板

# 『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いただいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL: 043-485-1801 FAX: 043-485-1803

〒285-0025 佐倉市鐺木町 198-3

E-mail: chuo-public@city.sakura.lg.jp

URL: [http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0\\_1.html](http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0_1.html)

『なかま』は佐倉市民カレッジの学生と卒業生で構成される編集委員が編集し、市民カレッジ情報コースの卒業生が文字入力を行っています。

### さくら道

このところ、佐倉市近郊の住宅地のロードサイドに、昭和の香りのする喫茶店が駐車場つきで登場している。名古屋の老舗チェーンK珈琲の村上店を皮切りに、八千代にH珈琲が、勝田台にT珈琲と、矢継ぎ早の出店で人気がある。

手軽なセルフ式カフェと異なり、昭和時代の凝った造りと内装のボックス席に座ると、さすが寛いだ気分になる。

最新の新聞と雑誌も並べられており、隣席のシニア家族の会話も弾んでいる。こだわりコーヒーの味となると今一歩だが、少し長居もできそうだ。

モーニングならトースト付で420円とそこそこだが、サンドイッチなどを注文すると単価は1000円前後にもなる。ママ友組もおいしそうなパンケーキ類を前に、落ち着いた居心地とおしゃべりを楽しんでいる。

さて、生き残れる店は…。

（荒井 賢一郎）

### あとがき

当月号も大変興味ある話題、有難うございました。またのご投稿をお待ち致しております。

さて、当編集部での掲載原稿の選出は、季節感や話題性、読者の関心度が期待できそうなものやご投稿者の方の掲載実績の有無や時期なども考慮し決定し、語句等の検討も行いますが、基本的には、ご投

稿の方のご意向を尊重させて頂いております。

『なかま』は、皆さんと編集部がいっしょに作る紙面です。2・3頁は「皆さん専用の頁」です。先輩から後輩へ後輩から先輩へ伝えたい明るい話題などご自由に。

また、日頃『なかま』をご愛読下さっている方も是非一度、ご投稿してみませんか。活字になると面白味倍増、この上無しですよ。

（田中 修司）